

「土砂災害について考えて行動する」

神奈川県 厚木市立戸室小学校 6年 <sup>うじもり</sup>氏森 <sup>みお</sup>心桜

今年の夏休み期間中は日本各地で記録的大雨による土砂災害をテレビニュースで見ました。被害にあった方のインタビュー映像を見ていると、災害はある日突然やってきて今まで住んでいた家を壊し生活環境を変えてしまう怖いものだと思います。私自身は土砂災害などの大きな自然災害にまだ直面したことはありませんが、両親は幼いころに何度か体験したことがあると話してくれました。

私の両親の実家は九州の田舎にあり、8月から9月にかけては台風などの自然災害のひんどが高かったそうです。3年前に九州の祖父母にお家に遊びに行った際、祖父母からも昔の災害時のことを教えてもらいました。自然災害が発生するとだいたい電線が切れてしまい、停電してしまうことが生活する上で不便だったそうです。3日間ほど停電が続いたこともあり、その間ろうそくの灯りだけで夜を過ごしたそうです。神奈川に住んでいる私には想像ができず自分だったら怖くて寝れないかと思ってしまいました。また家庭用水として井戸水を電動ポンプでくみあげて生活しているため、停電になると水が使えなくなるそうで父は子供のころポリ容器を持って近くの水源まで水を何度もくみに行ったそうです。田舎では今でもこのように井戸水を使って生活していることを聞いてびっくりしました。

こうした両親の経験は自宅を建てる際の考え方につながっていました。私の自宅は約10年前に両親が建てましたが、その時に防災に関する3つのことを重要視したそうです。1つ目は、防災に関する建築技術が優れているハウスメーカーを選ぶ。2つ目は、土砂災害や水害のえいきょうを少しでも受けないように地盤が強く、高台の場所であること。3つ目は、もし避難が必要になった場合を考え避難場所に近い場所に家を建てること。

私も防災に関する知識を学ぶため、この夏休み期間に厚木市にある神奈川県総合防災センターで災害状況を疑似体験してきました。疑似体験は実際の災害に直面したときに自分が適切な行動をとるための訓練として本当に良い経験になりました。大切なことはあわてず冷静に対応することだと改めて感じました。そして印象に残ったことは、まずは自分の身をしっかり守る「自助」、次に周りの人を助け合う「共助」という言葉です。

最後に、自宅には災害時の備えとして、飲料水・非常食・LEDライト・ラジオ・スマートフォン充電器・着替え等をリュックに入れ玄関近くのクローゼットに置いています。自分の地域で災害は起こらないだろう、と考えるのではなくて、自分の地域でも災害が起こるかもしれない、と考えるようにしたい。そして家族や学校でもっと災害について話し合い、地域全体で災害に備えていく考えや行動がもっと広がってほしいです。